

団体名	NARA Will 奈良県立医科大学 学生災害ボランティアグループ
活動テーマ	医療系学生による福島県内での学生災害ボランティア活動



仮設サロン 避難住民との交流
南相馬市原町区の仮設住宅集会所にて



力仕事ボランティア 被災者宅敷地内の清掃
南相馬市小高区（旧避難指示解除準備区域内）にて



被災地視察 小高海岸にて
2013年頃の様子との比較の説明を受ける参加者



事前教育 PFAサイコロジカルファーストエイド
（心理的応急処置）について社会人を交えて受講

【目的】福島県内において学生災害ボランティア活動を実施し、被災者の心に寄り添えるような活動や、ボランティア活動を行うことで、被災地・被災者に貢献する。被災地に赴いたことのない学生に被災地の復旧・復興が遅れている現状を認識してもらい、今後の被災地における支援活動、あるいは関西でもできる被災地支援活動に繋げる。

【実施方法、内容】平成28年8月に和歌山県立医科大学の学生と合同で2016学生災害ボランティアバス復興支援活動を、平成29年3月に2017春の学生災害ボランティア活動を実施した。活動では、仮設サロン（仮設住宅集会所での傾聴活動）の開催、避難指示が解除された地域での力仕事ボランティア、被災地の視察、福島災害医療セミナー夏期短期コースへの参加、南相馬市立病院 副院長及川友好医師の講義の聴講などを行った。仮設サロンでは傾聴活動のほか、血圧測定、ラジオ体操、アロママッサージ、クイズ大会などを行い、仮設住宅住民と交流した。被災地の視察では福島第一原発が立地し帰還困難区域も含まれている富岡町から浪江町にかけてと、避難指示が解除された地域である南相馬市小高区の海岸などを視察した。また活動に先立ち、PFAサイコロジカルファースト（心理的応急処置）について精神医療に携わっている専門の講師を招き、被災者の利益となる活動とするための心構え・方法や支援者として受けるストレスから自己を守る方法を学んだ。また災害支援経験者と経験や考え方を共有した。

【活動成果】力仕事ボランティア・仮設サロンを通じて物理的支援と精神的支援を行うことができた。ボランティア参加学生に対する、個人として、あるいは医療系学生として学びを得ることができた。力仕事ボランティアでは、実際に汗を流し、わずかではあるが被災地での復旧活動に貢献できた。仮設サロンでは被災者に楽しいひと時をすごしてもらうとともに、関西から支援を続けていきたいというメッセージを伝えることができた。また将来医療従事者となる学生にとって、自分に何が不足していてこれから何を学ばなければいけないかを感じるきっかけとなった。